

ゆっくり登山紀行

－ 播磨富士 初登山 －

May,2015 電気電子部門 福井英雄

屋久島に行きたいと妻が言った。昨年の夏まで定年を過ぎても看護師を勤めていたが、楽しみにしていたアイルランドの旅はイスラム国の事件をきっかけにやめてしまったのである。一昨年にも屋久島の計画をしていたが、娘が風邪で中止になってしまった。その話題が広まり、姪の耳に入った。彼女は日本の主な山を歩いているベテランである。



「おばちゃん！屋久島に行くのなら足腰を鍛えておかないとダメですよ」という。それがきっかけで一度近くの山に登ってみることになった。

明石の登山用品店で、まず登山靴とリュックと中厚の靴下をそろえる。店員さんに足のサイズを測ってもらい足にぴったりの靴を選んでもらった。この靴については後で大発見をするのだが。

4月24日雨の多かった今年の春も前日から晴れて絶好の天気である。私と妻を姪が迎えに来てくれた。車で30分ほど行くと高砂市の北部にある鹿嶋神社の駐車場についた。正月や行事のある日を除いては広々とした駐車場である。

ここが播磨富士と呼ばれる標高304mの「高御位山（たかみくらやま）」の登山口の一つである。そのほかに登山口は4か所ほどあるようだ。

登山靴に履き替えていざ出発。木々の林を抜けると岩場の稜線が表れる。ここは馬の背コースと呼ばれている。まさに馬の背のように岩肌が丸く出ている。

しばらく進むと関西電力の送電鉄塔の真下に来る。このように近くで見ると初めてである。2回線並架で2導体である。がいしが22個ほど連なっておりおそらく超高圧の275kV送電線であろう。ACSR（鋼心アルミより線）、アークホーン、ダンパー、架空地線と職業柄どうしてもこのようなことを思い浮かべる。

送電線といえば、国内の系統幹線は超超高圧の500kVが中心で、東電の一部で1000kV送電可能な幹線があるという。近い将来には発電と送電が分離されることになっている。

休み休み登り、平均時間の倍かかり山頂に着く。



山頂の峰の小道を行くと赤い山つつじの花が咲いておりその周りを黄色の美しい蝶が飛んでいた。頂に立つと下から吹き上げてくる風が新緑の瑞々しさを含み気持ちがいい。この山の南側は2011年1月24日に大きな山火事があったことを思い出した。黒い炭の焼け跡が見える。大きな木立は無く、見晴らしは抜群である。しかし、暑い日差しの中には木陰が無いので気を付けなければならない。加古川、高砂、姫路の工場や発電所が影絵のように霞んで見え、真下の学校からは構内放送が聞こえる。

昼食を取り、下山。少し下った所にまた関電の施設がある。5m角の看板のようなものである。これはマイクロウェーブ反射板である。重要な通信施設であるのか柵で囲ってあった。発電所と需要地の変化するデータをリアルタイムに収集し制御するための通信施設であろう。最近では光ケーブルに代わりつつあるが信頼性においてまだ優れているのであろうか。しかし光ネットワーク回線になれば信頼性も高くなる。などいろいろ想像する。

下りも岩肌に沿って別のルートを取る。新しい登山靴だと少々の斜面の岩肌でも滑らないことに気付く。また次の山に挑戦したい気分になる。

久しぶりの山歩きで、快い疲れを体験した一日であった。



頂上から高砂市、瀬戸内海方面を展望する。